

プレスリリース

本資料は7月15日に米国で
発表されたプレスリリースの
翻訳版です



2022年7月15日

2022年第2四半期決算および主要指標

CEO コメント

収益 196億ドル	当期利益 45億ドル	一株当たり 利益 2.19ドル	株主資本利益率 9.7% 有形普通株式 株主資本利益率 11.2% ⁽¹⁾	普通株式等 Tier 1 資本比率 11.9% ⁽²⁾
--------------	---------------	-----------------------	--	---

配当と自社株買いを通じ、13億ドルを普通株主に資本還元

配当性向は 29%⁽³⁾

一株当たり純資産額は 92.95ドル

一株当たり有形純資産額は 80.25ドル⁽⁴⁾

シティグループ・インクは、本日、2022年第2四半期の収益は196億ドル、当期利益は45億ドル（希薄化後株式一株当たり2.19ドル）と発表しました。これに対し、2021年第2四半期の収益は178億ドル、当期利益は62億ドル（希薄化後株式一株当たり2.85ドル）でした。

収益は前年同期から11%増加しました。正味金利収益および非金利収益が共に増加したことによりです。正味金利収益が増えた主な要因としては、金利上昇の影響に加えて、インスティテューショナル・クライアント・グループ(ICG)とパーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント(PBWM)での取引量増加が挙げられます。また、非金利収益も増加しました。ICGの債券市場業務とサービス業務の増収が、ICGの投資銀行業務とPBWMの非金利収益の減少による影響を上回りました。

当期利益は、前年同期比27%減の45億ドルでした。与信費用の増加および費用の8%増加は、収益が11%増加した影響を上回りました。

一株当たり利益は、前年同期から23%減少して2.19ドルとなりました。発行済み株式数が約4%減少したことにより一部相殺されましたが、当期利益の減少が要因となりました。

本プレスリリース内における比率の比較は、別途明記されていない限り、2022年第2四半期と2021年第2四半期を対比して計算されたものです。

シティの最高経営責任者であるジェーン・フレイザーのコメントは次のとおりです。「3月に開催したインベスター・デー以降、世界は変化してきましたが、当社の戦略に変更はなく、規律を守りつつ、迅速に遂行しています。トレジャリー&トレード・ソリューションは、シティのグローバル・ネットワークを活用したサービスの提供に全力を尽くしており、四半期業績は過去10年間で最高となりました。高いトレーディングのボラティリティにより、引き続き企業顧客の取引が旺盛となり、市場業務の増収率は25%に達しました。景況感の悪化により投資銀行業務とウェルス・マネジメントが影響を受けたのは確かですが、これらの事業への投資は継続しており、目指すべき方向性に進んでいます。米国のパーソナル・バンキングについては、過去数四半期の原動力となってきたクレジットカード関連の2事業が今期に堅調な増収率を達成しました。特にブランド・カードの成長率は10%に達しました」

「マクロ環境や地政学的環境は厳しい状況が続きましたが、シティのチームは堅調な業績を実現しました。流動性、信用力、準備金の水準を考慮すると、不確実な時下においても、シティは力強さを備えています。特に、強靱な資本基盤には満足しています。規制要件強化に伴い資本を積み上げたため、普通株式等 Tier 1 自己資本比率は11.9%となっています。当社の収益力と予定されている事業売却を背景に、引き続き投資家の皆様に向け多くの資本を創出してまいります」

第2 四半期決算

シティグループ (単位:百万ドル、ただし一株当たりの金額および 別記記載があるものを除く)	2022 年 第 2 四半期	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 2 四半期	前期比	前年同期比
インスティテュショナル・クライアント・グループ	\$11,419	\$11,160	\$9,549	2%	20%
パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント	6,029	5,905	5,698	2%	6%
レガシー事業基盤	1,935	1,931	2,279	-	(15)%
本社事項、本社業務／その他	255	190	227	34%	12%
収益合計、金利費用控除後	19,638	19,186	17,753	2%	11%
営業費用合計	12,393	13,165	11,471	(6)%	8%
正味貸倒損失	850	872	1,320	(3)%	(36)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(a)	375	(138)	(2,402)	NM	NM
その他引当金 ^(b)	49	21	16	NM	NM
与信費用合計	1,274	755	(1,066)	69%	NM
法人税等控除前の継続事業からの利益	5,971	5,266	7,348	13%	(19)%
法人税等	1,182	941	1,155	26%	2%
継続事業からの利益	4,789	4,325	6,193	11%	(23)%
非継続事業からの利益(損失) - 税引き後 ⁽⁵⁾	(221)	(2)	10	NM	NM
非支配持分に帰属する当期利益	21	17	10	24%	NM
シティグループ当期利益	\$4,547	\$4,306	\$6,193	6%	(27)%
継続事業からの利益(損失) - 税引き後					
インスティテュショナル・クライアント・グループ	3,978	2,658	3,433	50%	16%
パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント	553	1,860	1,805	(70)%	(69)%
レガシー事業基盤	(15)	(385)	492	96%	NM
本社事項、本社業務／その他	273	192	463	42%	(41)%
期末貸出金(単位:十億ドル)	657	660	677	-	(3)%
期末資産(単位:十億ドル)	2,381	2,394	2,328	(1)%	2%
期末預金残高(単位:十億ドル)	1,322	1,334	1,310	(1)%	1%
一株当たり純資産	\$92.95	\$92.03	\$90.86	1%	2%
一株当たり有形純資産額⁽⁴⁾	\$80.25	\$79.03	\$77.87	2%	3%
普通株式等 Tier 1(CET1)資本比率⁽²⁾	11.9%	11.4%	11.8%		
補完的レバレッジ比率(SLR)⁽²⁾	5.6%	5.6%	5.8%		
平均普通株主持分利益率	9.7%	9.0%	13.0%		
平均有形普通株式株主資本利益率(RoTCE)⁽¹⁾	11.2%	10.5%	15.2%		

注記:詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(b) 保険契約者の給付および債権に対する引当金、満期保有目的の債券および他の資産を含みます。

シティグループ

シティグループの収益は、2022 年第 2 四半期は 196 億ドルと 11%増加しました。投資銀行業務の取引の低迷およびグローバル・ウェルス・マネジメントの運用手数料に対する逆風により一部相殺されましたが、金利上昇、市場業務における顧客取引の増加、米国カード事業における回復の持続が増収の要因となりました。

シティグループの営業費用は、2022 年第 2 四半期は 124 億ドルと 8%増加しました。生産性向上による節減額で一部相殺されましたが、シティの変革に対する投資の継続、事業に対する投資の拡大、取引高の増加に関連する費用が発生したことによります。

シティグループの与信費用は、前年同期の(11)億ドルに対して 2022 年第 2 四半期は 13 億ドルでした。正味貸倒損失の減少により一部相殺されましたが、貸倒引当金(ACL)の正味繰入額を 4 億ドル計上したことが要因です。一方、前年同期は正味貸倒引当金戻入額が 24 億ドル発生していました。

シティグループの当期利益は、2022 年第 2 四半期は 45 億ドルと、前年同期から 27%減少しました。収益の増加により一部相殺されましたが、与信費用と経費の増加により減益となりました。当期のシティグループの実効税率は 19.8%とな

り、2021 年第 2 四半期の 15.7%から上昇しました。当期の実効税率の上昇には、特定の米国外事業に関連する税優遇措置の縮小が反映されています。

シティグループの貸倒引当金の合計は、当四半期末において約 160 億ドルで、貸出金総額の 2.44%でした。これに対し前年同期末は 192 億ドル(貸出金総額の 2.88%)でした。未収利息非計上貸出金の総額は、前年同期から 31%減少して 30 億ドルとなりました。個人向け未収利息非計上貸出金は、35%減少して 14 億ドルとなりました。一方、法人向け未収利息非計上貸出金は、前年同期から 26%減少して 17 億ドルとなりました。

シティグループの期末貸出金は、当四半期末において 6,570 億ドルとなり、前年同期から 3%減少しました。

シティグループの預金残高は、当期末残高で 1.3 兆ドルとなり、前年同期から 1%増加しました。

シティグループの一株当たり純資産額は、当四半期末において 92.95ドル、一株当たり有形純資産額は 80.25ドルと、それぞれ 2%と 3%増加しました。資本の部のその他包括利益累計額と普通株式配当の不利な変動によって一部相殺されましたが、当期利益と発行済み株式数の減少が主な要因となりました。四半期末時点でシティグループの普通株式等 Tier 1(CET1)資本比率は 11.9%と、前期の 11.4%から上昇しました。シティグループの 2022 年第 2 四半期の補完的レバレッジ比率は 5.6%と、前期と変わらない水準となりました。当期において、シティグループは、配当と自社株買いの形式で合計約 13 億ドルを普通株主に還元しました。

インスティテュショナル・クライアント・グループ (単位:百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 2 四半期	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 2 四半期	前期比	前年同期比
セキュリティーズ・サービス	\$994	\$858	\$855	16%	16%
トレジャリー & トレード・ソリューション	3,029	2,590	2,285	17%	33%
サービス業務の収益合計	4,023	3,448	3,140	17%	28%
債券市場業務	4,084	4,299	3,111	(5)%	31%
株式市場業務	1,236	1,527	1,144	(19)%	8%
市場業務の収益合計	5,320	5,826	4,255	(9)%	25%
投資銀行業務	805	1,028	1,503	(22)%	(46)%
法人貸付業務 ^(a)	777	689	688	13%	13%
銀行業務の収益合計^(a)	1,582	1,717	2,191	(8)%	(28)%
商品の収益、金利費用控除後^(a)	10,925	10,991	9,586	(1)%	14%
ローン・ヘッジ利益(損失)	494	169	(37)	NM	NM
収益合計、金利費用控除後	11,419	11,160	9,549	2%	20%
営業費用合計	6,434	6,723	5,829	(4)%	10%
正味貸倒損失	18	30	68	(40)%	(74)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(b)	(245)	948	(765)	NM	68%
その他引当金 ^(c)	25	(7)	3	NM	NM
与信費用合計	(202)	971	(694)	NM	71%
当期利益	\$3,961	\$2,640	\$3,421	50%	16%
サービスの主要ドライバー					
クロスボーダー取引額(単位:十億ドル)	79	76	68	5%	17%
商業クレジットカード利用額(単位:十億ドル)	15	11	9	32%	61%
米ドル決済額(単位:百万ドル)	37	36	36	2%	2%
カストディ資産/管理資産(AUC/AUA)(単位:兆ドル)	21	23	23	(8)%	(7)%

注記: 詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) クレジット・デリバティブならびに公正価値での貸出金の時価評価に係る利益(損失)を除きます。詳細については、脚注 6 をご参照ください。

(b) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(c) 満期保有目的の債券および他の資産の引当金を含みます。

インスティテューショナル・クライアント・グループ

ICG の収益は、20%増の 114 億ドルでした(ローン・ヘッジ利益(損失)を含みます)⁽⁶⁾。投資銀行業務の収益減少により一部相殺されましたが、サービス業務と市場業務の増収が原動力となりました。

サービス業務の収益は 40 億ドルと、前年同期から 28%増加しました。トレジャリー&トレード・ソリューションの収益は、33%増の 30 億ドルとなりました。中堅企業と大企業の両方における顧客取引が力強い伸びを示したことで、正味金利収益が 42%、非金利収益が 17%増加したことが背景にあります。セキュリティーズ・サービスの収益は 994 百万ドルと、16%増加しました。通貨全般の金利上昇を受けて正味金利収益が 41%増加し、発行体サービスにおける企業決済取引が高水準に推移したことにより非金利収益も 8%増加したことが要因です。

市場業務の収益は 53 億ドルと、前年同期から 25%増加しました。ボラティリティの高まりによって顧客契約が拡大したことによりです。債券市場業務の収益は 41 億ドルと、31%増加しました。主として金利、外国為替、コモディティの顧客契約が好調だったことが背景にあります。株式市場業務の収益は 12 億ドルと、8%増加しました。資産価値の下落の影響が新規顧客の残高の効果を上回ったことによるプライム・ファイナンスの残高の正味減少、および現物の顧客取引の減少により一部相殺されましたが、エクイティ・デリバティブが堅調だったことが要因です。

銀行業務の収益は、前年同期比で 4%減の 21 億ドルでした(ローン・ヘッジ利益(損失)を含みます)。ローン・ヘッジ利益(損失)を除くと、銀行業務の収益は、前年同期比で 28%減の 16 億ドルでした。投資銀行業務の収益は 805 百万ドルと、46%減少しました。地政学情勢を巡る不確実性の高まりとマクロ経済環境全体が響き、資本市場取引と M&A(企業の合併・買収)が減少したことが背景にあります。投資銀行業務の減収は、法人貸付業務の増収により一部相殺されました。

ICG の営業費用は 64 億ドルと、10%増加しました。生産性向上による節減額で一部相殺されましたが、シティの改革に対する投資の継続、事業に対する投資の拡大、取引高の増加に関連する費用が発生したことによりです。

ICG の与信費用は(202)百万ドルとなり、対して前年同期は(694)百万ドルでした。当期は正味貸倒引当金戻入額が 245 百万ドル、正味貸倒損失が 18 百万ドルでした。マクロ経済環境の不確実性の高まりに起因する繰入額の計上により一部相殺されましたが、戻入額を計上したのはロシア関連のリスクが縮小したことが主な要因でした。

ICG の当期利益は 40 億ドルと、前年同期から 16%増加しました。費用と与信費用の増加により一部相殺されましたが、収益の増加が原動力となりました。

パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント (単位: 百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 2 四半期	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 2 四半期	前期比	前年同期比
ブランド・カード	\$2,168	\$2,090	\$1,968	4%	10%
リテール・サービス	1,300	1,299	1,210	-	7%
リテール・バンキング	656	595	618	10%	6%
米国パーソナル・バンキングの収益合計	4,124	3,984	3,796	4%	9%
プライベート・バンク	745	779	747	(4)%	-
ウェルス・アット・ワーク	170	183	171	(7)%	(1)%
シティゴールド	990	959	984	3%	1%
グローバル・ウェルス・マネジメントの収益合計	1,905	1,921	1,902	(1)%	-
収益合計、金利費用控除後	6,029	5,905	5,698	2%	6%
営業費用合計	3,985	3,889	3,547	2%	12%
正味貸倒損失	699	691	862	1%	(19)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(a)	651	(1,064)	(1,035)	NM	NM
その他引当金 ^(b)	5	(3)	3	NM	67%
与信費用合計	1,355	(376)	(170)	NM	NM
当期利益	\$553	\$1,860	\$1,805	(70)%	(69)%

主要指標(単位: 十億ドル)

米国パーソナル・バンキング平均貸出金	167	161	157	4%	6%
米国パーソナル・バンキング平均預金残高	116	118	113	(2)%	3%
米国カード平均貸出金	133	128	122	4%	9%
米国クレジットカード利用額 ^(c)	148	128	127	15%	16%
グローバル・ウェルス・マネジメント顧客資産	730	788	790	(7)%	(8)%
グローバル・ウェルス・マネジメント平均貸出金	150	151	147	(1)%	2%
グローバル・ウェルス・マネジメント平均預金残高	319	329	297	(3)%	7%

注記: 詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(b) 保険契約者の給付および債権に対する引当金、満期保有目的の債券および他の資産を含みます。

(c) クレジットカード利用額は、これまでカード利用額と記載されていました。

パーソナル・バンキングおよびウェルス・マネジメント

PBWMの収益は60億ドルと、6%増加しました。正味金利収益の増加は、リテール・サービスのパートナーへの支払いを主因とする非金利収益の減少に一部相殺されました。

米国パーソナル・バンキングの収益は、9%増の41億ドルでした。ブランド・カードの収益は22億ドルと、10%増加しました。貸出金残高の増加によって利息が増えたことが背景にあります。新規アカウントとカード利用額が18%増加し、平均貸出金も11%増加しました。リテール・サービスの収益は、7%増加して13億ドルとなりました。貸出金残高の拡大による金利収入の増加が要因ですが、その一部はパートナーへの支払いの増加により相殺されました。リテール・バンキングの収益は656百万ドルと、約6%増加しました。預貸利ざやの拡大と取引高の増加が主な要因でした。

グローバル・ウェルス・マネジメントの収益は 19 億ドルとなり、横ばいでした。特にアジアにおいて運用手数料が逆風となりましたが、平均預金残高と平均貸出金の伸びで相殺されました。

PBWMの営業費用は 12%増加し、40 億ドルとなりました。生産性向上による節減額で一部相殺されましたが、シティの変革に対する投資の継続、事業に対する投資の拡大、取引高の増加に関連する費用が発生したことによります。

PBWMの与信費用は 14 億ドルとなり、対して前年同期は(170)百万ドルでした。マクロ経済環境を巡る不確実性の高まりを反映して、当期に正味貸倒引当金繰入額を 651 百万ドル計上したことが主な要因です。前年同期は正味貸倒引当金の戻入額を 10 億ドル計上していました。正味貸倒損失は、ポートフォリオの与信実績が引き続き良好であったことから19%減少しました。

PBWMの当期利益は 553 百万ドルと、69%減少しました。収益の増加により一部相殺されましたが、費用の増加と貸倒引当金繰入額が主な要因です。

レガシー事業基盤 (単位:百万ドル、ただし別途記載があるものを除く)	2022 年 第 2 四半期	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 2 四半期	前期比	前年同期比
アジア個人金融部門	\$880	\$787	\$1,052	12%	(16)%
メキシコ個人金融部門/SBMM ^(a)	1,184	1,139	1,184	4%	-
レガシー保有資産	(129)	5	43	NM	NM
レガシー収益合計、金利費用控除後	1,935	1,931	2,279	-	(15)%
営業費用合計	1,814	2,293	1,788	(21)%	1%
正味貸倒損失	133	151	390	(12)%	(66)%
正味貸倒引当金繰入額(戻入額) ^(b)	(31)	(22)	(602)	(41)%	95%
その他引当金 ^(c)	19	31	8	(39)%	NM
与信費用合計	121	160	(204)	(24)%	NM
当期利益(損失)	\$(17)	\$(383)	\$494	96%	NM

主要指標(単位:十億ドル)

アジア個人金融部門の期末貸出金	17	20	54	(11)%	(68)%
アジア個人金融部門の期末預金残高	17	18	54	(2)%	(68)%
メキシコ個人金融部門/SBMM の期末貸出金 ^(a)	21	21	20	-	3%
メキシコ個人金融部門/SBMM の期末預金残高 ^(a)	36	34	33	5%	8%
レガシー保有の期末貸出金	3	4	5	(14)%	(36)%

注記: 詳細については、本プレスリリース末尾の付表と脚注をご参照ください。

(a) SBMM は、小規模事業者およびミドルマーケット・バンキングを示します。

(b) 貸倒引当金繰入額(戻入額)と未実行貸出約定に関する貸倒引当金を含みます。

(c) 保険契約者の給付および債権に対する引当金、満期保有目的の債券および他の資産を含みます。

レガシー事業基盤

レガシー事業基盤の収益は 19 億ドルと、前年同期から 15%減少しました。オーストラリアの個人金融部門の売却に関連する影響額に加えて、韓国事業の段階的縮小、アジアの個人金融部門における投資活動縮小が主な要因でした。

レガシー事業基盤の費用は、1%増の 18 億ドルでした。

レガシー事業基盤の与信費用は 121 百万ドルとなり、対して前年同期は(204)百万ドルでした。正味貸倒引当金戻入額の減少が主な要因でしたが、その一部は正味貸倒損失の減少により相殺されました。

レガシー事業基盤の当期損失は(17)百万ドルとなり、対して前年同期は当期利益が 494 百万ドルでした。収益の減少、費用の増加、与信費用の増加が背景にあります。

本社事項、本社業務／その他 (単位:百万ドル)	2022 年 第 2 四半期	2022 年 第 1 四半期	2021 年 第 2 四半期	前期比	前年同期比
収益、金利費用控除後	\$255	\$190	\$227	34%	12%
営業費用合計	160	260	307	(38)%	(48)%
与信費用合計 ^(a)	-	-	2	-	(100)%
継続事業からの利益	273	192	463	42%	(41)%
当期利益	\$50	\$189	\$473	(74)%	(89)%

(a) 満期保有目的の債券および他の資産の引当金を含みます。

本社事項、本社業務／その他

本社事項、本社業務／その他の収益は 255 百万ドルと、12%増加しました。投資ポートフォリオの正味収益の増加が原動力となりました。

本社事項、本社業務／その他の費用は、前年同期比 48%減の 160 百万ドルとなりました。特定の決済および報告目的での米ドルへの為替換算の影響額が要因となりました。

本社事項、本社業務／その他の継続事業からの利益は 273 百万ドルとなり、対して前年同期は 463 百万ドルでした。特定の米国外事業に関連する税優遇措置の縮小が要因でした。

シティについて

シティは、国際取引を必要とするお客様のための卓越した金融パートナー、ウェルス・マネジメント分野のグローバルリーダーであり、米国市場で高く評価されているパーソナル・バンキング事業を展開している金融機関です。世界160以上の国と地域において、個人、法人、政府機関などのお客様に、幅広い金融商品とサービスを提供しています。

www.citigroup.jp | www.citigroup.com | Twitter: @Citi | YouTube: www.youtube.com/citi | Blog: <http://blog.citigroup.com> | Facebook: www.facebook.com/citi | LinkedIn: www.linkedin.com/company/citi

本件に関するお問い合わせ先

シティグループ
コーポレート・アフェアーズ
03-6776-5112

Appendix A

Citigroup (\$ in millions)	
Net Income	\$4,547
Less: Preferred Dividends	238
Net Income to Common Shareholders	\$4,309
Common Share Repurchases	250
Common Dividends	1,010
Total Capital Returned to Common Shareholders	\$1,260
Payout Ratio	29%
Average TCE	\$154,439
RoTCE	11.2%

Appendix B

(\$ in millions)	2Q'22 ⁽¹⁾	1Q'22	2Q'21
Citigroup Common Stockholders' Equity⁽²⁾	\$180,150	\$178,845	\$184,289
Add: Qualifying noncontrolling interests	129	126	138
Regulatory Capital Adjustments and Deductions:			
Add: CECL transition provision ⁽³⁾	2,271	2,271	3,774
Less:			
Accumulated net unrealized gains (losses) on cash flow hedges, net of tax	(2,106)	(1,440)	864
Cumulative unrealized net gain (loss) related to changes in fair value of financial liabilities attributable to own creditworthiness, net of tax	2,145	27	(1,258)
Intangible Assets:			
Goodwill, net of related deferred tax liabilities (DTLs) ⁽⁴⁾	19,504	20,120	20,999
Identifiable intangible assets other than mortgage servicing rights (MSRs), net of related DTLs	3,599	3,698	3,986
Defined benefit pension plan net assets; other	2,038	2,230	2,040
Deferred tax assets (DTAs) arising from net operating loss, foreign tax credit and general business credit carry-forwards	11,757	11,701	11,192
Excess over 10% / 15% limitations for other DTAs, certain common stock investments, and MSRs ⁽⁵⁾	727	1,157	-
Common Equity Tier 1 Capital (CET1)⁽⁶⁾	\$144,886	\$143,749	\$150,378
Risk-Weighted Assets (RWA)⁽³⁾⁽⁶⁾	\$1,220,000	\$1,263,298	\$1,277,234
Common Equity Tier 1 Capital Ratio (CET1 / RWA)⁽⁶⁾	11.9%	11.4%	11.8%

Note: Citi's reportable CET1 Capital ratios were derived under the Basel III Standardized Approach framework for all periods reflected. This reflects the more binding CET1 Capital ratios under both the Standardized Approach and the Advanced Approaches under the Collins Amendment.

(1) Preliminary.

(2) Excludes issuance costs related to outstanding preferred stock in accordance with Federal Reserve Board regulatory reporting requirements.

(3) Please refer to Footnote 2 at the end of this press release for additional information.

(4) Includes goodwill "embedded" in the valuation of significant common stock investments in unconsolidated financial institutions.

(5) Assets subject to 10%/15% limitations include MSRs, DTAs arising from temporary differences and significant common stock investments in unconsolidated financial institutions. As of March 31, 2022 and June 30, 2022, the deduction related only to DTAs arising from temporary differences that exceeded the 10% limitation.

(6) Certain prior period amounts and ratios have been revised to conform with enhancements made in the current period.

Appendix C

(\$ in millions)

	2Q'22 ⁽¹⁾	1Q'22	2Q'21
Common Equity Tier 1 Capital (CET1)⁽²⁾	\$144,886	\$143,749	\$150,378
Additional Tier 1 Capital (AT1)⁽³⁾	20,265	20,266	19,258
Total Tier 1 Capital (T1C) (CET1 + AT1)	\$165,151	\$164,015	\$169,636
Total Leverage Exposure (TLE)⁽²⁾⁽⁴⁾	\$2,936,894	\$2,939,533	\$2,903,760
Supplementary Leverage Ratio (T1C / TLE)	5.6%	5.6%	5.8%

(1) Preliminary.

(2) Please refer to Footnote 2 at the end of this press release for additional information.

(3) Additional Tier 1 Capital primarily includes qualifying noncumulative perpetual preferred stock and qualifying trust preferred securities.

(4) Certain prior period amounts and ratios have been revised to conform with enhancements made in the current period.

Appendix D

(\$ and shares in millions, except per share amounts)

	2Q'22 ⁽¹⁾	1Q'22	2Q'21
Common Stockholders' Equity	\$180,019	\$178,714	\$184,164
Less:			
Goodwill	19,597	19,865	22,060
Intangible Assets (other than MSRs)	3,926	4,002	4,268
Goodwill and Identifiable Intangible Assets (other than MSRs) Related to Assets Held-for-Sale	1,081	1,384	-
Tangible Common Equity (TCE)	\$155,415	\$153,463	\$157,836
Common Shares Outstanding (CSO)	1,937	1,942	2,027
Tangible Book Value Per Share	\$80.25	\$79.03	\$77.87

(1) Preliminary.

(1) 暫定値。シティグループの平均有形普通株式株主資本利益率(RoTCE)は、非GAAP財務指標です。RoTCEは、平均有形普通株式株主資本(TCE)に対する、普通株式に割り当てられる年次換算の利益率です。計算の構成要素については、付表Aをご参照ください。

(2) 2022年6月30日現在のレシオは暫定値です。シティグループの普通株式等Tier 1(CET1)資本比率と補完的レバレッジ比率(SLR)は、規制資本に対する現在予想信用損失(CECL)基準への移行に伴う修正に係る引当金に基づく特定の繰延を反映しています。これらの繰延を除くと、2022年6月30日現在のシティグループのCET1資本比率とSLRは、完全反映ベースでそれぞれ11.7%と5.5%になります。詳細については、シティグループの2021年度年次報告書(フォーム10-K)の「資本リソース」セクションをご覧ください。当期間になされた改善との一貫性を確保するため、一部の過去期間の金額が変更されています。

シティグループのCET1資本およびその比率については、付表Bをご参照ください。シティグループのSLRの構成要素については、付表Cをご参照ください。

(3) シティグループの配当性向は、普通株式と普通株式の買戻しの配当合計を普通株主に係る当期利益で割った値です。計算の構成要素については、付表Aをご参照ください。

(4) シティグループの一株当たり有形純資産額は、非GAAP財務指標です。報告する決算に対するこの指標の調整については、付表Dをご参照ください。

(5) 2022年第2四半期の非継続事業は、過去にレガシー事業を売却した(機能通貨が米ドル以外の)法人の実質的な清算に関係する、その他包括利益累計額(AOCI)に計上された為替換算調整(CTA)損失(ヘッジ控除後)の戻入額が反映されています。

(6) クレジット・デリバティブは、未収利息計上貸出金と時価評価される貸出金両方が含まれる法人向け貸出金ポートフォリオの一部を経済的にヘッジするために使用されます。ローン・ヘッジ利益(損失)には、クレジット・デリバティブの時価評価と時価評価されるポートフォリオの貸出金の時価評価が含まれています。2022年第2四半期のローン・ヘッジ利益(損失)には、法人貸付業務に関連する494百万ドルが含まれており、前年同期は(37)百万ドルでした。これらのヘッジの固定プレミアムコストは、信用補完の費用を反映するために、法人貸出業務の収益に対して相殺されています。ローン・ヘッジ利益(損失)の影響を除いたシティグループの業績は、非GAAP財務指標です。